

なかま新聞

なかま新聞
編集 新聞部員
姫路市北条宮の町
215番地
TEL079-287-1025



仲間バンザイ!

「この度は「あけび」の仲間による『なかま新聞』の創刊号発行、おめでとうございます。この新聞が、「あけび」の仲間にとって明るい笑顔で豊かな毎日を過ごすための良きパートナーとして役立つことを祈念致します。小さな頃によくお年寄りから、「人生とは重い荷物を背負って坂道を登るが如し」と言う言葉で、人間がこの世に生を受けて生きていくには大変な事があることを教えられたも

だから落ちこまないようにするために、若いときは仲間同士で助け合って励まし合い、苦しみながら道を開いたものです。そして、そこに互助の精神が生まれ一生つきあえる真の友達にも出見え、今、その時代の出来事が走馬燈のように思い出されます。現在の私は、パーキンソン病のお陰というか予期せぬ難病に出会いましたが、こうしてあけびの皆様にお世話になり、色々な仲間の前向きに楽し日々を送らせていただいています。



俳句 菊池武明

のです。ちよつと油断すると真つ逆さまに谷底へ落ちこむんだよね。

「仲間万歳」です。これからもよろしくお願ひします。写真・文 岩村 和雄

おめでとう

西播磨 姫路ブロック長

岩佐 雅展

刊号発行おめでとうござい

「あけび」利用者の有志の方々に新聞部を作られ、創刊号が発行されること聞き、おめでとうの一言と、病気に負けずがんばる皆さんに心からの敬意を表します。パーキンソン病友の会兵庫も、地域ブロック活動を本格化し、姫路だけでなく、西播磨全体として、積極的な活動へ再スタートしたばかりです。従来どおり「あけび」利用者の皆さんと一体になって、西播磨の同病者が、手を取り合い、完治の日が来るまで、互いに知識の交換と、励まし、助け合い、一緒に楽しみながらがんばりましょう。

今を大切に

人間生まれてきて良かったという人生を送っていますか？人間の幸せというのはお互いの心の持ちようの中にある。一つの事実を自分の心で受け止めて、それを幸せにしてい、日常生活がそのまま修行であり「一日一日を精一杯努力していく、一日一生のつもりで生きていく」

人生の喜びは日々の努力の中にあり、その積み重ねが自分の心を磨き、人生の喜び、幸せにつながっていく。

親から授かった大切な命「今を大切に」生きていきたいですね。

森澤 博



絵 菊池武明

仲間の声

出会い

谷村 秀樹

「あけび」に通所する楽しみは、同病者との出会いと職員の方々の笑顔に接することですが、これまでに思わぬ出会いがありました。

例えば、サンTVが「あけび」に取材に来たスタッフの中に、S女子中出身のYさんが活躍していたことです。

また、通所者の娘さん(H中出身、テニス部で活躍したKさん)から「谷村先生ですか」と声をかけられ、一瞬、誰かと思いきやドキマギしました。

教え子と出会うのは嬉しい反面、自分の老いの姿を見られたくなかったのです。

三十年前の若い自分の姿でイメージをつぶされないうまうまでいたいと思うこともあるのです。

最近、孫が入部している野球部にS中出身のS君の子供も入部していることが分り、「大変なつかしい、ぜひ先生に会いたい」と言っているとき、会うべきかどうか複雑な気持ちになっています。

ちよつと嬉しい話

石田 恵子

一年半程前から口腔内の不快感におそわれ、何を食べてもおいしく思えず、体重も目減りしていましたが、先日、いきつけの薬局で体内成分を測定してもらったら、なんと六十八歳！
実年齢よりも七歳若かったのです。

同じ症状の方

北村 俊樹

今、特に朝の時間帯によくしんせん(振戦)が出ます。こういった症状の方がおられたら話したいです。

俳句・川柳

小春日の日溜り求め
野点かな
菊池 武明

紅葉にひかれ立ち寄り
古都の寺
長谷川 和宏

被災地の復興願ひ
屋台練り
木村 正人

私の孫自慢

お孫さんに限らず、皆様の宝物や自慢の何かを是月『ななかま新聞』に投稿してください



芹澤 登代子さんの孫
芹澤篤人くん23年5/31生まれ
芹澤優人くん23年5/31生まれ



福島 吉雄さんの孫
福島しずくちゃん4歳
福島みくちゃん4ヶ月



皆様方のお力添えにより、立派な創刊号が発行され、ご同慶の至りに存じます。編集部一同は、皆さまと一緒に「ななかま新聞」の充実を図るべく頑張ります。今後とも宜しくお願い致します。

一口メモ
人間の血管の長さは全部でどれくらいあるの？

一人分で全身で約十万里メートルあります。地球二週半になります。また心臓に送る血液の量は一分間に五リットル以上の血液を送り、一生では石油タンカー一隻分(二十万トン)ほどの血液を送りだしているということです。

《編集後記》

森澤 博